

中国語の成語学習における日本人学生の母国語の負の影響について

中日言語学院 土手美樹

はじめに

中国語の中で成語を引用することは単に表現を豊かにするだけでなく、話者の教養の高さを示す指標ともなる。日本人学習者の中でも、ビジネスの重要な場面で、また公式な場での挨拶等で中国語を話す必要がある人にとっては、その中に成語を盛り込むことは、語学力が上級レベルに達していることだけでなく、身につけた教養の高さを証明する具体的な手法とも言える。社会人の中国語学習者に、とりわけビジネスで中国語を使用する機会の多い学習者には正しい成語を是非ともマスターしてもらいたいところである。

母国語の負の影響

日本語の故事成語は中国語の成語が元になっているものが多いので、多くの日本人学習者は、成語学習を「容易なもの」と思っていることが多い。ところが、実際に常用されている成語の中には、日本語の故事成語とは表現が微妙に違っているものがあり、日本式の語彙を安易に中国語読みすることによる誤用が生まれる原因となっている。殊に中国の歴史や故事に精通している学習者は、自身の故事成語に関する知識に非常に自信を持っているだけに思わぬ落とし穴に陥ることがある。

民間の語学学校で主に社会人に中国語を指導してきたこれまでの授業経験を通して、彼ら社会人学習者に次のような傾向がみられることがわかった。

- ① 学習した成語の定着率が低い。
- ② 素直に受け入れられない。

中国から日本へ言葉や文字が伝わった後、長い時間を経てそれぞれの言語文化の影響を受け、少しずつ変化した結果が現在の中国語の成語であり日本語の故事成語であるのだが、それらの違いを理解し、正しい中国語の成語を習得させるためには、まず説得力のある客観的なデータを示し、心理的に受け入れやすい状況を作り出すこと、次にこれまでの記憶と同等に近い強力な印象を伴って成語を記憶できる手法を使うことが必要になってくる。

日本語の四字熟語・諺と中国語の成語との比較

客観的なデータ収集のために、基礎的かつ常用される成語を対象とし、日本語の四字熟語・諺との比較を行った。

・対象：中国の小学生向け副教材《小学語文一点通系列・成語》収録の214の成語

【第一段階】

対応成語と非対応成語に分類

対応成語：日本語の四字熟語・諺に対応する言葉があるもの

(例) 一衣帯水：一衣帯水。

非対応成語：日本語の四字熟語・諺に対応する言葉がないもの

(例) 走马观花：大雑把に物事を見るたとえ

対応成語	非対応成語	合計
70 (32.7%)	144 (67.3%)	214 (100%)

【第二段階】

対応成語の再分類

- 原型借用型（音読）：一衣帯水
- 和訳型（書下し文）：百聞は一見に如かず
- 部分変更型
 - 省略型：蛇足＝画蛇添足
 - 文字変更型：疑心暗鬼＝疑神疑鬼

➤ 表記相違型：釈迦に説法＝班門弄斧

原型借用	和訳	部分変更	表記相違
10 (14.3%)	10 (14.3%)	33 (47.1%)	17 (24.3%)
		省略	文字変更
		11 (15.7%)	22 (31.4%)

日本人学習者への成語教育

上記のデータを示しながら、具体例については最小限に抑え、学習者自身に他の実例を探し出し、次回の授業にて他の学習者に発表する機会を設ける等の手法を取り、少しずつではあるが効果が得られている。人生経験豊富な学生には、「説得」しようとしてもむずかしく、むしろ「発見」させて、さらには「説得する側」に立たせる方が素直な受け入れに効果が有り、且つかなり強い印象と記憶を残すことができるようである。

今後の課題

- ① 小学生向けの初歩的成語のみではなく、中国語における常用成語を対象に分類調査を行う必要性
- ② 部分変化型発生の経緯に関する考察
- ③ 成語の具体的な運用方法の教授法

<主要参考文献>

- 1.程燕.小学语文一点通系列 成语一点通.安徽少年儿童出版社,2007
- 2.肖勇.「汉语成语与日语”成语”」『札幌国際大学紀要』2000
- 3.鄭麗芸.「中国語・日本語における故事成語の対照研究」『椋山女学園大学研究論集』第33号（人文科学篇）2002
- 4.有田忠弘.「中国語における成語」『龍谷大学論集』1976
- 5.佐藤武.「成語に関する研究」『麗沢大学紀要外国語編』1963